



No.93

# さいばい ニュース

(財) 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237  
神奈川県三浦市三崎町  
城ヶ島養老子  
☎ 046(882)6980  
FAX 046(881)2233

あけましておめでとう  
ございます。  
昨年は、東日本大震災  
や紀伊半島での豪雨、西  
湘地域での酒匂川の濁水  
などによる被害が甚大で、  
水産界にとって大変な年  
となりました。  
今年、自然災害がな



財団法人 神奈川県栽培漁業協会  
理事長 後藤 勇

## 新年のご挨拶

いように祈るとともに、  
被害を最小限にするため  
の備えを怠りないように  
したいものです。  
神奈川県栽培漁業協  
会にとって、昨年四月か  
ら自立化ということで、  
県の補助金がなくなり、  
マダイの種苗放流数を従  
来、百万尾から七十万尾  
にしました。  
放流尾数を維持する必  
要が皆さまから寄せられ  
るとすれば、協力金につ  
いて再度、ご相談する機



ヒラメ種苗放流

漁業者は  
資源管理を  
実施するた  
めに、休漁  
の実施や小  
型魚の保護  
などを行い  
ますが、こ  
れらは漁業  
者の収入に  
も直接影響  
を与える場  
合がありま  
す。  
そこで、  
収入の減少  
分を補てん  
する所得補

## 今年から資源管理・漁業所得補償対策による ヒラメ種苗放流始まる

国及び県は平成二十三  
年度から、資源管理の取  
り組みを進め水産物の安  
定供給を図るため、計画

的に資源管理に取り組む  
漁業者を対象に、漁業所  
得補償対策を進めていま  
す。

償対策を行うことによつ  
て、漁業者の皆さんが安  
心して資源管理に取り組  
めるようになります。

神奈川県資源管理指針  
では、漁業種類ごとにヒ  
ラメ資源管理措置の内容  
を定めています。

ヒラメ資源を維持させ  
るためには、安定的な種  
苗放流の実施が必要であ  
ることから、全ての漁業  
種類で種苗放流の実施を  
資源管理措置の内容とし  
ています。

その他、ヒラメ資源に  
ついて固定式さし網漁業  
ではヒラメ産卵期におけ  
る一定期間の反数削減、  
ヒラメ体長制限、定置網  
漁業では、ヒラメ体長制  
限があります。

平成二十四年度から同  
事業によるヒラメ種苗放  
流が加わるのでヒラメの  
漁獲増大が期待されます。

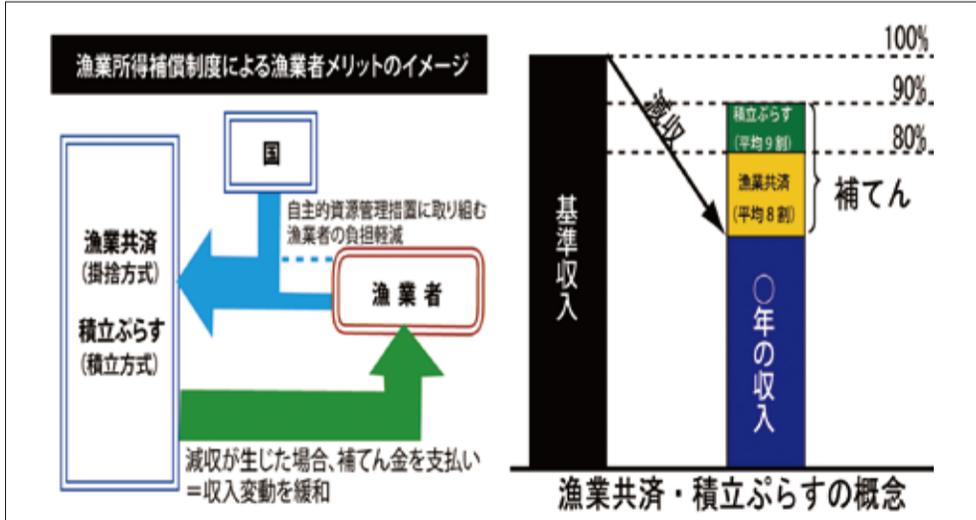
会を持ちたいと思ってい  
ます。  
ヒラメの放流について  
は、太平洋海域栽培漁  
業推進協議会に参加す  
ることによって、昨年は  
神奈川県海域で五万尾を  
共同で放流することがで  
きました。  
今年も引き続き、太平  
洋南海域でのヒラメ種苗  
を共同放流します。  
また、漁業所得補償制度  
の共済加入によってヒラ  
メ種苗数の積み増しが行  
われることを期待してい  
ます。  
昨年十一月には、新公  
益法人申請での一里塚で  
ある電子申請をしました。

今後、県庁水産課との  
協議を経て、公益法人認  
定委員会の審査に臨むこ  
とになります。  
現在の財団法人神奈川  
県栽培漁業協会が公益財  
団法人神奈川県栽培漁業  
協会として認可されるの  
は、認定委員会の審査が  
どのくらい時間掛かる  
か不明ですが、平成二十  
四年四月一日から新法人  
を登記できればと希望し  
ています。

最後にになりましたが、  
皆さまのご健康とご多幸  
そして大漁を祈念申し上  
げまして、新年の挨拶と  
します。

## 潮騒

第三十五回相模  
湾の環境保全と水  
産振興シンポジウ  
ムが十月二十八日  
小田原で開催され  
「自然大災害の実  
態と今後の対策に  
ついて」がテーマで、東  
京大学地震研究所の都司  
嘉宣先生が「東日本太平  
洋沖地震・津波の教訓」  
と題した基調講演を行  
いました。特に大地震によ  
る大津波は、四十メート  
ルに届く場所もあるとい  
う巨大なものでした。こ  
のため人命、家屋、水  
産・漁業施設を破壊し、  
消滅してしまつた町もあ  
りました。▼エネルギーが



資源管理イメージ図

あけましておめでとうございます (財) 神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

**タムラ運輸サービス株式会社**  
全国においしさを運びます  
代表取締役 石川 義夫  
本社 〒239-0831 横須賀市久里浜一丁目10-1  
TEL 046-834-2100(代)  
FAX 046-834-5500  
■長井営業所 〒238-0316 横須賀市長井五丁目1-17  
TEL 046-857-4664  
FAX 046-857-4669

**相模湾遊漁問題  
対話推進協議会**  
会長 小菅 福久  
〒250-0021 小田原市早川一丁目1-1  
TEL 0465-22-5989  
FAX 0465-22-5514

環境保全と水産業の振興を  
財団法人  
**相模湾水産振興事業団**  
理事長 武井 正  
〒250-0021 小田原市早川一丁目1-1  
TEL 0465-22-5989  
FAX 0465-22-5514

**東京湾遊漁船業協同組合**  
理事長 飯島 正宏  
〒140-0002 東京都品川区東品川一丁目1-1  
TEL 03-3471-7401  
FAX 03-3458-6835

社団法人  
**全国豊かな海づくり推進協会**  
会長理事 服部 郁弘  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町九十六  
小伝馬町松村ビル六階  
TEL 03-5651-3501  
FAX 03-5651-3502



産卵礁に産み付けられたアオリイカの卵

横須賀市・長井町漁協のアオリイカ増殖部会は、これまでどのような礁にアオリイカが産卵するか、礁を設置して潜水調査を

# アオリイカ礁に期待

## 長井町漁協で説明会

行ってきました。昨年十一月に開いた説明会で、アオリイカは産卵場所として、葉持ちが良く枝が入り組んだ物陰が得意で、すいすいの木などが最適です、と発表しました。

アオリイカ産卵礁は、塩害に強い葉ぶりの良い木を使い、張り出した磯の陰に位置する砂地の水深約十センチの海域に、海底に立てて設置することが良いそうです。一方、天然の岩礁域はアオリイカ産卵礁を設置するには適さないことも分かったそうです。

試験は同部会が事業主体となり、全国豊かな海づくり推進協会の平成二十三年度「漁協等実践活動助成事業」を活用し、神奈川県水産技術センターの協力で実施しました。



種苗を積み込む放流船



放流を確認

協会は昨年八月下旬、平成二十三年度種苗放流事業で七十万尾のマダイ稚魚を相模湾から東京湾までの沿岸適地に放流しました。

が全員でマダイ種苗を飼育している三浦市・小網代湾の生簀に乗り、最後の餌の配合飼料をマダイ稚魚に与えました。そのうちに活魚運搬船「第十八昭幸丸」が生簀に到着

# 今年度はマダイ種苗を七十万尾放流

しました。直ちに生簀の網を締め、網でマダイ稚魚を水と一緒にすくい、同船の水槽に移しました。同船は直ちに放流海域に向かい、この日は湯河原町・福浦沖から放流を始め、小田原市・大磯町、茅ヶ崎市、鎌倉市・腰越、横須賀市・小田和湾、三浦市・松輪、横須賀市・鴨居、横浜市・金沢沖に放流しました。

今年度放流したマダイ種苗の生育は良く、全長は八センチに育っていました。放流する種苗が大きければ大きいほど放流後の生存率は高いので、マダイ資源増大が期待されます。



古川さんの包丁さばきを見つめる参加者

# 小田原・男性の料理教室

## 料理教室」を開きました。

小田原市男性の会は昨年十二月、「男性の料理教室」を開きました。小田原市内の二十五人の男性は、特別講師として出席した小田原鮮魚店舗商組合の古川孝昭組合長が行なった魚の三枚卸などの「模範」処理を見学した後、七つのテーブルに分かれ、小田原市食生活改善推進団体の協力で主菜の「アジフライ」作りなどを体験し、それらをおかずには昼食を食べました。

# 漁業者交流大会は一月十日

平成二十三年度神奈川県漁業者交流大会は、一月十日午後一時から横浜駅西口のかながわ県民センター二階ホールで開催されます。

漁業士認定証書授与式、活動発表「めしや大磯港」や話題提供「ナマコの種苗生産」「海産物の放射能検査」も行われる予定です。

# まぐる千夜一夜

## 続 艦のオンチャン航海記

### 第16話 国棄て ⑨

(前号までのあらすじ：Gさんのセイルン人の奥さんに対する卑劣な会話を聞き、所長と所員を殴り付け、事務所を飛び出し、それっきりになりました)

そして、翌日にはもう船で、コロンボに戻ったそうです。

勿論、辞表や何かは一切なし。どうせ現地採用なんだから、誰一人困るものもないだろう、と考えた上でねえ、後で冷静になって、この時の自分の行動を思い返しても

「自分に恥じることは何一つない。我ながらようやくやった」と胸を張ったそうです。

「勿論、今も後悔は全くしていないよ」

そう断言していたGさん、恰好よかったですなあ。

奥さんの父親という人は「椰子」を商売にしていました。

Gさんもココナツの売り買いには実績があるし、自信もありました。そこで、義父の仕事の共同経営者として働くようになった、ということでした。

## 椰子が一杯の宝の島

Gさんは酔いの回った巻舌で話を続けました。

「椰子の木っていう植物はサ、ただの木じゃねえよ。これはなあ、神様から人間へのプレゼントなのさ。だってそうだろう、木材としては建築材や家具になるし、樹液は酒、ホラ、今お前さんが飲んでる酒は、元は椰子なんだぜ。飲むことも食べることも出来る、貴重な食糧だし、バターや石鹸、薬の原料、そして最近では、防臭剤や何かにも利用されるようになり、その価値は上がるばかりさ。この島には二百万本以上の椰子の木があるんだから、まさに宝の島と呼びたくなるよなあ」

Gさんの事務所は、コロンボから東

北東三十哩にあるパラスリン島にあり、彼に言わせると、印度洋で最も風光明媚な島で、この世の極楽やそ

さて髭のGさんですが、あんなことがあつては、もう再びあの会社には戻れないし、戻る気もない。

「ほなら、捨てついでに、いっそのこと日本も一緒に棄ててしまえ」

「それにしても思い切ったもんですなあ」

Gさんに言うと、もうえらく酔ってしまつて、言葉遣いもべらんめい口調でまくしたてるのですわ。

「オウ、マグロ船ッ」

「ヤイ、ジャパニーズ、セイラーマンなどと呼んだり、もう減茶苦茶でござりませうがな。」

何十年振りに、日本人相手に打ち解けた話が出来て喜んでいるところですから、僕も腹が立ちません。

「オイ、マグロ船。お前はボロ船でマグロなんぞ獲らせているのは勿体ねえ。どうだ、ここで俺らと一緒に椰子でも育てながら、のんびり暮らす気はねえか。日本人にしておくれは惜しいやねえ」

「これ、褒められとるのか、クサされとるのか、どっちやろうかなあ」

今でも分かりませぬ。

また、呂律の廻らぬ舌を嘗めながら、Gさんはこんな話もしました。

## 準白人のバカ日本人

さ。ダルエスサラーム、船乗りなら知ってるよな。タンザニアの首都だよ。そこで同業者の集まりがあつてさ。終わった後、一杯飲み乍らのお喋り。例によって噂話や、陰口や、愚痴を言い合つてさ。

あけましておめでとうございます (助)神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

**神奈川県漁業協同組合連合会**

代表理事 高橋 征人

〒2336-0051  
横浜市金沢区富岡東二丁目二  
TEL 045-773-1677  
TEL 045-773-1677

**神奈川県漁船保険組合**

漁船漁業を守ります。

組合長理事 木村 和一

〒2336-0051  
横浜市金沢区富岡東二丁目二  
TEL 045-773-1677  
TEL 045-773-1677  
FAX 045-773-1677

**神奈川県漁業無線協会**

社団法人

会長理事 栗山 義男

〒2338-0232  
三浦市晴海町一丁目  
TEL 046-188-2127  
TEL 046-188-2127

**神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会**

会長 堀江 一

〒240-0103  
横須賀市佐島三丁目一  
TEL 046-188-2127  
FAX 046-188-2127

**東京湾南部水産振興事業団**

財団法人

理事長 岩崎 一郎

〒239-0831  
神奈川県横須賀市久里浜八九五  
TEL 046-183-1596  
TEL 046-183-1596  
FAX 046-183-1596

**株式会社ヤマリア**

新しい釣りを提案する

代表取締役 山下 整治

本社・横須賀工場  
〒239-0868  
神奈川県横須賀市神明町1-1-4  
TEL 046-185-4733  
FAX 046-185-4733  
http://www.yamaria.co.jp/

昨年夏から秋にかけて、神奈川県の沿岸で種苗放流が行われました。中には魚料理を主に提供している飲食店の人たちが初めて「海の恵みで仕事をさせてほしい」と、少しでも水産資源を豊かできれば」とマダイ稚魚放流を行いました。

### 日本プレジャーボート協会「マダイ稚魚放流会」

日本プレジャーボート協会は昨年八月、親子連れなどが参加する「マダイ稚魚放流会」を開催、漁業とマリレジャーの共存をめざし、二千六百尾のマダイ稚魚を三浦市沖に放流しました。

同協会が釣り人の任意団体として、わが国で初めてマダイの稚魚放流を行ったのは十八年前です。以後、一般の人たちが海の資源の大切さや自然の素晴らしさを体感し、海でのマナーと節度ある釣りを楽しんでもらうため、みうら漁協の協力を得て放流を続けています。

### 飲食店経営者会社「マダイ稚魚放流」

横浜、東京・品川で合計五店舗の飲食店を経営、朝獲れの新鮮食材を提供している「ファーストドロップ社」は、昨年八月、横須賀市佐島のシラス船曳網漁業者「山茂丸」の協力で、同社のスタッフによるマダイ稚魚千尾の放流を行いました。

### マダイやクロダイの種苗を放流

## 水産資源の増大に願いを込めて

組合員は、同校は自分たちが卒業し、また自分の子弟が通う学校なので、社会科教育に協力しようと、五年前から放流会を実施しています。

が参加するマダイ稚魚千尾の放流会を行いました。放流稚魚は協会が小網代湾で飼育してきた種苗で体長が十三センチの大きさに育ったマダイ稚魚です。放流に先立ち協会の今井利為専務は「一卵をふ化させ四月から育ててきました」と説明しました。

### 田島ライオンズクラブ クロダイ種苗放流

川崎市の田島ライオンズクラブは、十月、東扇島の海浜公園で、地元小学生と父兄ら四十人が参加したクロダイ稚魚二千尾の放流会を行いました。子どもたちに小さな生命と海の資源を守る大切さを知ってもらおうというものです。

協会の今井利為専務が「このクロダイ稚魚は協会の施設で育てていたもので、体長が約七センチに育っています」と説明、子どもたちと父兄は協会の職員にバケツに稚魚を入れてもらい放流しました。

協会の今井利為専務は「このクロダイ稚魚は協会の施設で育てていたもので、体長が約七センチに育っています」と説明、子どもたちと父兄は協会の職員にバケツに稚魚を入れてもらい放流しました。

協会の今井利為専務は「このクロダイ稚魚は協会の施設で育てていたもので、体長が約七センチに育っています」と説明、子どもたちと父兄は協会の職員にバケツに稚魚を入れてもらい放流しました。

### 横浜ベイサイドマリナではマダイ種苗を千尾

九月、横浜ベイサイドイサイドマリナはマダイ種苗千尾を放流しました。放流前に開校式が行われ、協会は、フィッシングクラブから栽培漁業に役立ててと募金をいた

### 日釣振と協会がクロダイ種苗放流

日本釣振興会と協会は十月、横須賀市長井町地先で合計一万尾のクロダイ稚魚を放流した。このうち千尾は、地域の振興を目指して活動している地域の未来を考える会の稚魚放流イベントに協力、地元の幼稚園児らが荒崎海岸に放流しました。

協会の今井利為専務は「二年後には体長十七センチに育ちます」と説明、海岸清掃に参加していた親子連れや幼稚園児がバケツに稚魚を入れてもらい放流しました。



海の恵みに感謝し、マダイ種苗放流



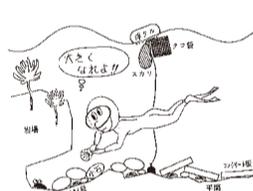
地元の海を豊かにと、小学生がマダイ種苗放流



海浜清掃後、クロダイ種苗を放流

## さいばい漁業つて何⑫

熟練を必要とします。漁期は海水の透明度が良い冬季に主に行われます。



城ヶ島では、漁獲時間

### アワビは

アワビは普段、岩盤と殻の間に少し軟体部を見せる状態でいます。漁師は、その隙間にへら状の金具(磯金)を差込み、間髪を入れずに岩盤から剥がし漁獲します。少しも躊躇したり、外したりすれば、岩盤に張り付き漁獲はできなくなりま



水産技術センターHP(池田文雄)より

を制限するため、ウェットスーツの着用を認めています。そこで、伝統的に船上で薪を燃やして暖をとっています。

放流したアワビは、例えば殻径十センチメートルで漁獲した場合、体重が百二十グラム、十二センチメートルでは二百五十グラム以上になります。単価が一キログラム当たり六千円とすると百二十グラムの貝は七百二十円、二百五十グラムの貝は千五百円になります。

一年漁獲を控えると同じ個のアワビでも二倍の収入増となります。この一年間に自然界で死ぬアワビはほぼ二十パーセントですので、実質七百二十円が千二百円となる計算です。

このことから、神奈川県は海面漁業調整規則でアワビの漁獲制限殻径が十一センチメートルですので、漁獲制限殻径から一センチメートル大きく



マガリ(標本漁業)の船にのりたアワビ

もう一つのアワビの獲り方として「視突き」があります。この漁法は船上から長い竿の先に鈎や小網をつけ、それを使って海底に付着しているアワビを剥ぎ取る方法です。ガラスを張った箱めがねで海底を覗き、狙いを定めて竿を下ろし、片足で船外機の操船を行う技は見事なものです。この漁法は手、足、目、歯を使って箱めがねを支える、歯を使う総合的な技術と

して漁獲する方法が良いことになりました。

ただし、大きくしたから沢山漁獲できるかと言うとそうではありません。アワビの平均的な寿命は、七、八年でしょう。勿論、マダカアワビでは殻径二十四センチメートルのジャンボアワビがいて、その年齢は二十年以上と推定されます。

アワビは漁獲しなくても、タコなどの食害や台風などの自然災害によって自然に死んでいきます。天然のアワビの再生産を助長するためには、禁漁区を設けて、資源を保護する必要があります。

しかし、禁漁していてもアワビ資源は自然に死んでいく個体があり、最大の資源量となる時期は、マガリアワビの場合、放流後三年目であり、四年目からは資源が減少していくこととなります。このことから、放流アワビの収穫は、放流後、三年〜四年目に漁獲するのが良いでしょう。

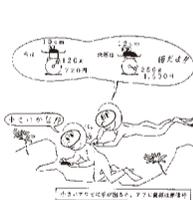


図9 アワビの1年貝を1,000個体放流し、生捕量0.70kgの漁獲量(kg)の経年変化(つづく)

あけましておめでとうございます (財)神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

クロレラ工業株式会社  
生産本部技術特販部  
〒833-0656  
福岡県筑後市久富一三四三  
TEL 〇九四二一五二二二六  
FAX 〇九四二一五二二〇三



(有)瀬戸活魚センター  
代表取締役社長 藤木治夫  
〒720-0203  
広島県福山市田尻町四二八九番地  
TEL 〇八四一九五六一三四七三  
FAX 〇八四一九五六一三四七四

株式会社リビエラリゾート  
シーボニアマリナ  
〒238-0225  
三浦市三崎町小網代二二八六  
TEL 〇四六八二二二二二二

焼肉食堂  
げんこつや  
※葉山牛カルビ 945円  
店主 石坂幸央  
〒240-0104  
横須賀市若名二〇一三  
TEL 〇四六八五七二二二九  
■定休日:毎週火曜、第三水曜



株式会社 鈴木組  
土木・港湾・浚渫工事  
石材採取販売・測量調査  
代表取締役 脇山俊  
〒259-0201  
足柄下郡真鶴町真鶴九九五一一  
TEL 〇四六八一五五五五

芙蓉海洋開発株式会社  
〒111-0051  
東京都台東区蔵前三一五七  
TEL 〇三二五八二〇一一八一



【アクセス】車だと三崎方面から国道134号線の佐島入口を左折して約2分、逗子方面からは芦名を右折して2分です。バスだとJR逗子駅発佐島マリーナ入口行き行きに乗り佐島港下車、徒歩1分です。  
 【住所】横須賀市佐島3-1 【TEL】0120-041-184

## 朝市・直販所めぐり 丁寧な手造りの水産食品が好評 佐島港 漁師さんの魚工房「ヤマネ」

「メさば」を作るときは、その日の朝、定置網漁船が佐島漁港に水揚げしたサバを水できっちり締め、加工場に搬入、三枚に卸し、塩をまぶして水分を取り、中骨・腹骨を手作業で全て抜き取った後に曾我(小田原)で採れた「梅酢」に漬けます。真空パックして冷凍してできあがる、という手間を惜しまない製品作りが好評を博しています。



手造りが好評、漁師さんの魚工房

「漁師さんの魚工房ヤマネ」という名の水産加工業者。社主の福本威さんは元タイワシなどを獲っていた巻網漁船の経営者。それだけに魚の目利きはするどく、鮮度・美味しさを見分けます。

また、茎ワカメ、アカモク、釜揚げヒジキなどの海藻商品も取り揃えています。



多くの消費者が詰めかけたフェア  
 多くの消費者が詰めかけたフェア。多くの子供も来て、親戚連れなども含め多くの人が来場し、同支所の直販所で同漁港に水揚げされた魚介類を買い求めています。

来場者は東京湾で獲れる魚介類を堪能した一日となりました。



まだ小さいと思ったら……海へ戻してあげましょう。

東日本大震災で発生した津波は、福島第一原発を破壊し、放射能漏れを起こしました。このため神奈川県でも水揚げされる水産物の放射能濃度検査が続いています。昨年十一月末現在、百を超す魚介類の検査を行

東日本大震災で発生した津波は、福島第一原発を破壊し、放射能漏れを起こしました。このため神奈川県でも水揚げされる水産物の放射能濃度検査が続いています。昨年十一月末現在、百を超す魚介類の検査を行

ついでに、魚が食べられませんかという声が届いているそうです。風評被害がこれ以上大きくならないようにしてほしいものです。

### 秋のさかなフェア開催 地の魚を求め多くの市民が来場

今年四月にオープンし、江戸前の魚を使ったアナゴ丼などが安く食べられると大好評の「小柴のどんぶりや」も営業しました。その場で食べる人、持ち帰る人で注文の列ができました。また、同漁協所属船が漁獲するアナゴやシヤコ、クルマエビなどの直販所では江戸前の魚を購入したいという人が多く入りきれないほどでした。



岸壁からもマダイ稚魚放流

腰越漁港で開催されました。定置網などで獲れた魚の販売、マダイ稚魚放流、吹奏楽演奏など盛りだくさんのイベントが繰り広げられました。また、東日本大震災の被災者を見舞おうと募金箱が置かれていました。

午前十一時からは地元小学校の児童と父兄が遊漁船に分乗、同漁港沖合で八百尾のマダイ稚魚を放流しました。また、まつり会場に来ていた他の子どもたちも漁港岸壁で稚魚放流に飛び入り参加、活きたマダイ稚魚に触れ大喜びしていました。

### 黒岩神奈川県知事がシマノに感謝状



神奈川県黒岩知事は昨年八月、神奈川県庁本庁舎三階知事室で、シマノ釣具事業部の人見康弘取締役開発設計部長に、マダイ遊漁者協力金に多額の寄付を続け、県の栽培漁業推進に貢献してくれました、と感謝状を贈りました。

同社は、協会が「マダイ遊漁者協力金制度」を始めた平成十三年度から、制度の推進に協力しようとして寄付をはじめ、同社創立九十周年の今年を合わせると寄付はこれまでに九回、合計千四百万円に達し、厳しい環境の中にある本県のマダイ種苗生産・放流を支えています。

### 小田原港まつり



「小田原港まつり」は昨年八月、小田原漁港とその周辺で開催されました。親子連れなど多くの来場者で賑わいましたが、小田原市漁協の定置網漁船が漁獲した鮮魚の直販には、多くの消費者が詰めかけました。

今回は東日本大震災の被災地復興を応援しようとして「がんばろう日本」水族館「タッチングプール」では子どもたちが泳ぎ回る魚に触り歓声を上げていました。また、定置網見学「これが相模湾の定置網だ」に参加した親子連れなどは、漁船で沖に出て定置網で魚を獲る様子などを見学し、引き続き二隻の定置網漁船に分乗し、来賓とともに沖に向かい、約四千尾のマダイ稚魚の放流を行いました。

### 編集後記

定値はいずれも不検出であるいは食品衛生法上の暫定基準値を下回っている「安全を確認」しているそうです。